

一般県道豊田笠師保停車場線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

七尾市

しお  
塩 づ 津 遺 跡

2005

石川県教育委員会

財石川県埋蔵文化財センター

しお  
塩 津 遺 跡

2005

石 川 県 教 育 委 員 会  
財 石 川 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

## 例 言

- 1 本書は塩津遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は七尾市中島町塩津地内である。
- 3 調査原因は一般県道豊田笠師停車場線改良工事であり、同事業を所管する県土木部道路建設課が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 調査は㈱石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成14(2002)年度から平成16(2004)年度にかけて実施した。業務内容は現地調査・出土品整理・報告書刊行である。
- 5 調査に係る費用は県土木部道路建設課が負担した。
- 6 現地調査は平成14年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。  
期 間 平成14年7月1日～同年7月15日  
面 積 250㎡  
担当課 調査部調査第3課  
担当者 端 猛(主任主事)、谷内明央(主事)
- 7 出土品整理は平成16年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 報告書刊行は平成16年度に実施し、調査部調査第3課が担当した。執筆は谷内明央(調査部調査第2課主事)が行った。
- 9 調査には下記の機関の協力を得た。  
県土木部道路建設課、中島町教育委員会(現七尾市教育委員会)
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
  - (1) 方位は磁北である。
  - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.(東京湾平均海拔高)による。
  - (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。
  - (4) 製塩土器の破面はスクリーントーンで示した。

# 目 次

第 1 章	調査に至る経緯と経過	1
第 1 節	調査に至る経緯	1
第 2 節	調査の経過	1
第 3 節	出土品整理・報告書刊行	1
第 2 章	遺跡の位置と環境	3
第 3 章	調査の成果	6
第 1 節	概 要	6
第 2 節	遺 物	6
第 4 章	まとめ	10

## 第1章 調査に至る経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

塩津遺跡は、平成8年度から県営ほ場整備事業に伴って実施されていた県教育委員会文化財課（以下、文化財課）による試掘調査の際に発見された遺跡である。

旧中島町の沿岸地域をほぼ南北に貫く国道249号線から内陸の豊田方面へ抜ける生活道路である県道豊田笠師停車場線は幅員が十分に確保されておらず車両の交差が容易ではない。その点を解消すべく県土木部道路建設課（以下、道路建設課）は同路線の改良工事を計画した。しかし工事箇所には塩津遺跡が含まれているため、工事によって遺跡が影響を受ける250mを対象に発掘調査を実施することになった。

道路建設課は文化財課に発掘調査を依頼し、文化財課は財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）に発掘調査を委託した。調査は調査部調査第3課が担当した。

### 第2節 調査の経過

平成14年6月6日に七尾土木総合事務所（現中能登土木総合事務所。以下、七尾土木）・文化財課・埋文センターとの間で現地協議が行われ、調査範囲・ユニットハウス設置場所・駐車場等を確認した。6月14日にユニットハウスを建上げ、7月1日に表土除去・器材搬入を行った。7月2日から作業員が加わり、本格的に発掘調査が始まった。遺物包含層を掘削後、遺構検出を行ったが明確な遺構は確認できなかった。調査区中央を深く掘り下げ、下部の確認を行ったが遺構・遺物は確認できなかった。5日に写真撮影を行い、8日には実測作業が完了した。15日に七尾土木に現場を引き渡し、現地における作業は完了した。

### 第3節 出土品整理・報告書刊行

平成16年度、文化財課は出土品整理と報告書刊行を埋文センターに委託した。出土品整理は企画部整理課が担当した。整理内容は遺物の記名・分類・接合・実測・トレースと遺構図トレースである。報告書刊行は調査部調査第3課が担当した。



## 第2章 遺跡の位置と環境

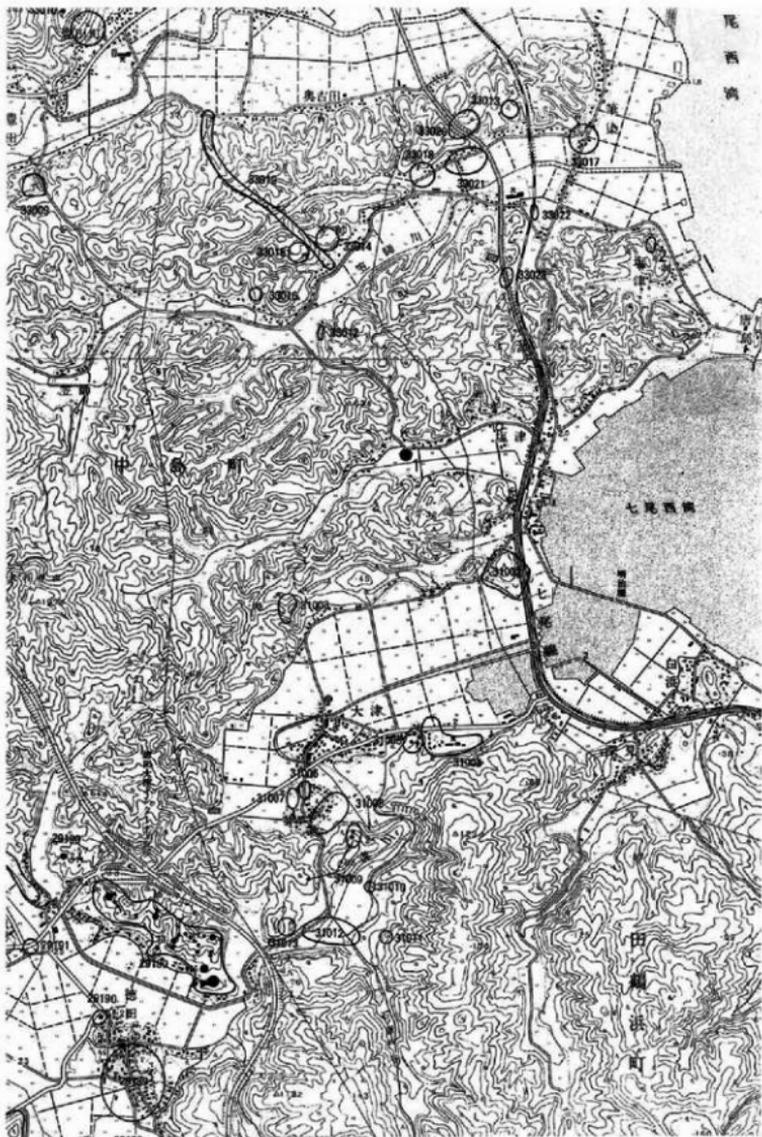
塩津遺跡は石川県七尾市中島町塩津地内に所在する。天行寺山系を水源とする塩津川は開析谷や沖積地を形成しながら七尾西湾に注ぎ、その流域に広がる狭小な沖積地北縁に現塩津集落が営まれている。遺跡はその集落内、日面神社の南に立地し、周辺の小字名は上組と呼ばれている。遺跡の南側に広がる田面は、かつての入り江を埋め立てたものであるといわれ、往時の集落は旧汀線際に立地していたものと推定される。

周囲の遺跡を概観する。大津遺跡(31008)では縄文時代前期後葉の土坑墓・堅穴状遺構・石組遺構等が検出されている。出土した土器の主時期は前期中葉に位置づけられている。大津くろだの森遺跡(31012)では中期中葉の堅穴住居や後期中葉以降の環状柱列・4本柱建物等が検出されている。また中期後半～後期中葉に位置づけられている石器が約1,300点出土している。大津神社境内遺跡(31007)では鳥居のすぐそばから弥生の磨製石剣、小型有樋式石剣が出土している。徳田1号墳(29190-1)は全長約85.5mを測る前方後円墳である。県内では能美市秋常町の秋常山1号墳(全長約110m)に次ぐ規模であり、能登半島の最北端に分布する前方後円墳とされている。下笠師E遺跡(33017)では井戸状の土坑から荒型10点とその削り屑が出土している。時期は8世紀後半に位置づけられており、木製食器の生地生産に関連する遺跡としては全国でも最古級とされている。中笠師中世墓(33012)では14世紀後半～15世紀後半の墓地群が検出されており、五輪塔・板碑等が出土している。同時期の墓地は笠師川流域に多く分布することで知られている。塩津太子塚は北に位置する正永寺の太子信仰に由来があるとされ、県内の紀年銘資料から時期は16世紀前半に位置づけられている。現在でも「太子講」は毎年笠師保地区で執り行われているとのことである。

七尾西湾は製塩遺跡の分布密度が高いことで知られている。笠師カキノウラ遺跡(2)では大型の倒盃脚が10点出土している。これは能登式製塩土器の最古型式として知られている祖浜遺跡と同時期に位置づけられており、土器製塩の初現を考えるうえで興味深い資料である。第3図に示した以外にも多くの製塩遺跡が確認されている。中島フジノキ遺跡(33076)では大型の倒盃脚が8点出土している。隣接する中島フジノキ製塩遺跡(33075)では多量の棒状脚と倒盃脚1点が出土しており、時期は8～9世紀に位置づけられている。ヤトン谷内遺跡(33047)では大型の棒状脚や平底タイプとともに土器器襖や鉢形土器に似た「類製塩土器」が出土している。時期は7～10世紀に位置づけられている。出土した製塩土器・土師器・須恵器には胎土分析が行われており、すべて在地産との結果が得られている。



第2図 遺跡の位置



第3図 周辺の道跡 (S = 1/25,000)

第1表 遺跡地名表

番号	遺跡名	現状	立地	時代	出土品	備考
1	塩津遺跡	田	丘陵崖	古墳・古代	製塩土器、土師器、須恵器、白磁	2002年県埋文センター発掘調査
2	笠師カキノワラ製塩遺跡	山林	丘陵	不詳	製塩土器	
29189	得田氏館跡	宅地	平地	古墳	土師器、須恵器	2003～2004年県埋文センター発掘調査
29190	前方後円墳(全長85.5m)、貫石、2段築城	山林	丘陵	古墳		前方後円墳(全長85.5m)、貫石、2段築城
2	徳田2号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径33m、高5m)
3	徳田3号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径17m、高2m)
4	徳田4号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(14.5～10m、高1.3m)
5	徳田5号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径26m、高1.7m)
6	徳田6号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径11.5～10m、高1.5m)
7	徳田7号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径16m、高2m)
8	徳田8号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径15.5m、高2m)
9	徳田9号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径20～18.5m、高2.5m、帆立貝型前方後円墳の可能性あり)
10	徳田10号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(14m、高1m)
11	徳田11号墳	山林	丘陵	古墳		方墳(辺12m、高2.5m)
12	徳田12号墳	山林	丘陵	古墳		方墳(辺8×8.5m、高0.5m)
13	徳田13号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳(全長31.8m)
14	徳田14号墳	山林	丘陵	古墳		方墳(辺12×9m、高1.7m)
15	徳田15号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径19.5m、高1.3m)
16	徳田16号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳か(全長55m)
17	徳田17号墳	山林	丘陵	古墳	弥生土器	円墳(径20m、高2.0m)
18	徳田18号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径17～12.5m、高1.3m)
19	徳田19号墳	山林	丘陵	古墳		方墳(辺10×18m、高1.5m)
20	徳田20号墳	山林	丘陵	古墳		方墳(辺10m、高2m)
21	徳田21号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径12m、高1m)
22	徳田22号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径12m、高1.7m)
23	徳田23号墳	山林	丘陵	古墳		前方後円墳か(全長30m)一部土取りにより消失
24	徳田24号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径30m、高5m)
25	徳田25号墳	山林	丘陵	古墳		円墳
29191	徳田宮前遺跡	田	平地	奈良・平安		
31002	駒鳥遺跡	山林	丘陵崖	古墳	土師器	
31003	黒石遺跡	山林	丘陵	不詳		
31004	大津小學校遺跡	校地	平地	古墳・奈良	製塩土器	敷地拡張の際出土
31005	1 大津東1号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径8m)、石材散乱、横穴式石室
2	大津東2号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径9m)石材散乱、横穴式石室
3	大津東3号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(9m)
4	大津東4号墳	山林	丘陵	古墳		円墳(径11m)、石材散乱、横穴式石室
31006	大津神社前遺跡	畑・田	平地	不詳	土師器、須恵器	
31007	大津神社境内遺跡	社地	丘陵麓	弥生・古墳	小型有横穴式石室、紡錘車、土師器、須恵器	青銅利器種作遺物の出土として性格の研究がなされる。
31008	大津遺跡	社地、宅地、畑	平地	縄文・中世	縄文土器、石鏡、石鏡、磨製石斧、石鏡、凹石、石臼、打製石斧、弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器、土師質土器	1991年県埋文センター発掘調査
31009	1 大津1号古墳	畑	丘陵麓	古墳	須恵器1、土師器、刀3以上、鉄器3以上、金環銅環4、不図鉄製品	円墳(径10m)、横穴式石室(長6m、両袖形)
2	大津2号古墳	山林	丘陵麓	古墳		円墳、横穴式石室が露出
3	大津3号古墳	山林	丘陵麓	古墳		円墳、横穴式石室(全長3m)
31010	大津堂ヶ谷内遺跡	林道・山林	丘陵麓	縄文	磨製石斧	1972年林道工事中に出土
31011	大津赤元遺跡	山林	丘陵	縄文・中世	縄文土器、土師皿	1994年県埋文センター発掘調査
31012	大津くさだの森遺跡	田・畑	平地	縄文	石鏡、縄文土器	1994～1996年県埋文センター発掘調査
31013	大津口ケエ遺跡	山林	丘陵	古墳・近世	須恵器、土師器	1992～1993年県埋文センター発掘調査
33009	農田ホリバタケ遺跡	畑・山林	丘陵	縄文・奈良・平安	縄文土器(中皿)、須恵器	
33012	中笠師中位墓	田	中世	中世	5輪塔、珠洲焼	1991年県埋文センター発掘調査
33013	笠師A遺跡	山林	丘陵上	中世		
33014	笠師B遺跡	平地	丘陵斜面	平安・中世	土師器、須恵器、珠洲焼	
33015	笠師C遺跡	山林	丘陵斜面	奈良・平安	須恵器	
33016	笠師D遺跡	山林	丘陵斜面	中世	珠洲焼片	
33017	笠師E遺跡	田・宅地	平地	中世	土師質土器、珠洲焼、越前焼	1992年県埋文センター発掘調査
33018	笠師F遺跡	田	平地	古墳・奈良・中世	土師器、須恵器、製塩土器、珠洲焼	1992年県埋文センター発掘調査
33019	扇塚遺跡	山林	丘陵上	近世		
33020	二輪家跡	山林	丘陵上	近世		
33021	下笠師スノブ遺跡	田	平地	奈良・中世	土師器、須恵器、珠洲焼、五輪塔(大雲寺墓所に所収)、製塩土器、木製品、漆器	1992年県埋文センター発掘調査
33022	笠師南側製塩遺跡	田	平地	古墳	製塩土器	
33023	笠師南側トシイ製塩遺跡	田	平地	古墳	製塩土器	

## 第3章 調査の成果

### 第1節 概 要

調査区は県道豊田笠師停車場線が笠師保へ向かう手前、丘陵の裾を切り一部盛土して作られている現県道の南側に位置する。調査区を出土遺物の多い西半と少ない東半に大きく分け、西半西側を1区、東側を2区とし、東半を3区とした。

標高は現況田面が2.6～2.7m、遺構検出面が1.6～1.8mで西から東へ傾斜する。

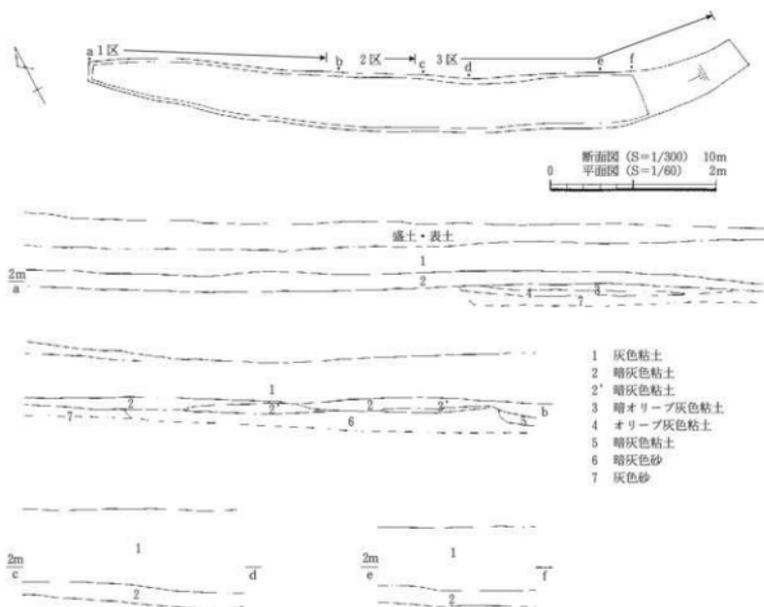
土層は大きく4層に分かれる。表土・盛土の下に地山岩屑をブロック状に含む灰色粘土（土色番号1。以下同様）が堆積していた。その下層には遺物包含層である暗灰色粘土（2）が20cmの厚さで堆積していた。腐植質で炭化物や土器を含み、土器の時期は幅広く、特に製塩土器の出土が目立った。部分的に腐植質の強い面所（2）があり、土質的にはより下の層に近い。その下層には腐植質が強い粘土層（3～5）が堆積していた。5層は若干溝状に落ち込む断面形を呈するが下層確認の結果、明確な層を確認できなかった。これらの粘土層は部分的に途切れており、層の厚さも比較的薄い。遺構の検出作業はこの層で行っている。その下層には暗灰～灰色の砂層（6～7）が堆積していた。この層はビート層で、腐植質が極めて強く木片も多量に含まれていた。粘性が強くしまりが悪いうえに湧水し、雨の降った翌日には泥沼と化すような状況であった。

検出の結果、遺構は確認できなかったので、2区と3区の境界周辺で下層確認を行った。検出した面から1m、現況田面から2mの深掘りの結果、ビート層は途切れず遺物も確認できなかったので、そこで掘り下げを終了した。

### 第2節 遺 物

1は深鉢である。外面に斜方向の条痕文が荒めに施され、内面下半にはかすかに指押さえの痕跡が認められる。2は壺である。内外面ともに斜方向のハゲが施される。外面はハゲ調整の上から櫛状工具で6本一組の直線文が3段施され、下半には煤の付着が認められる。3は甕である。外面はケズリの後にハゲが施される。5本・10本各一組ずつ、2種類の櫛状工具が使用されているようで、横・斜方向に施される。底部外面に圧痕が認められた。内面はハケメの後にナデが施されており、焦げが顕著である。4は甕である。磨耗が著しいため調整は不明である。口縁はくの字状に緩く外反し、端部はナデによって若干上下に広がる。5は高杯である。磨耗が著しいため調整は不明である。口縁半ばで段を形成し、その屈曲点から端部にかけて外反する。端部はやや水平に面取りされ、若干外側にのびる。6は器台である。磨耗が著しいため調整は不明である。7は甕である。底部外面は一部被熱している。8は製塩土器の倒盃脚と考える。外面に一部斜方向のハゲが残り、底部外面の凹部には被熱の痕跡が認められる。9も同様の被熱痕が認められた。10は瓶である。調整は内外面ともロクロナデだが、耳部周辺の外面に3本一組の平行タタキが、内面にはそれに対応する当具痕が認められた。耳部は欠損しているが1箇所穿孔が施されており、その孔径は4mmを測る。11・12は有台杯である。11は底部内面中央が若干へこみ、体部の張りはやや強い。11・12の胎土は、角ばった長石・石英の粒の大きさが目立ち、鳥屋窯跡群産の可能性がある。

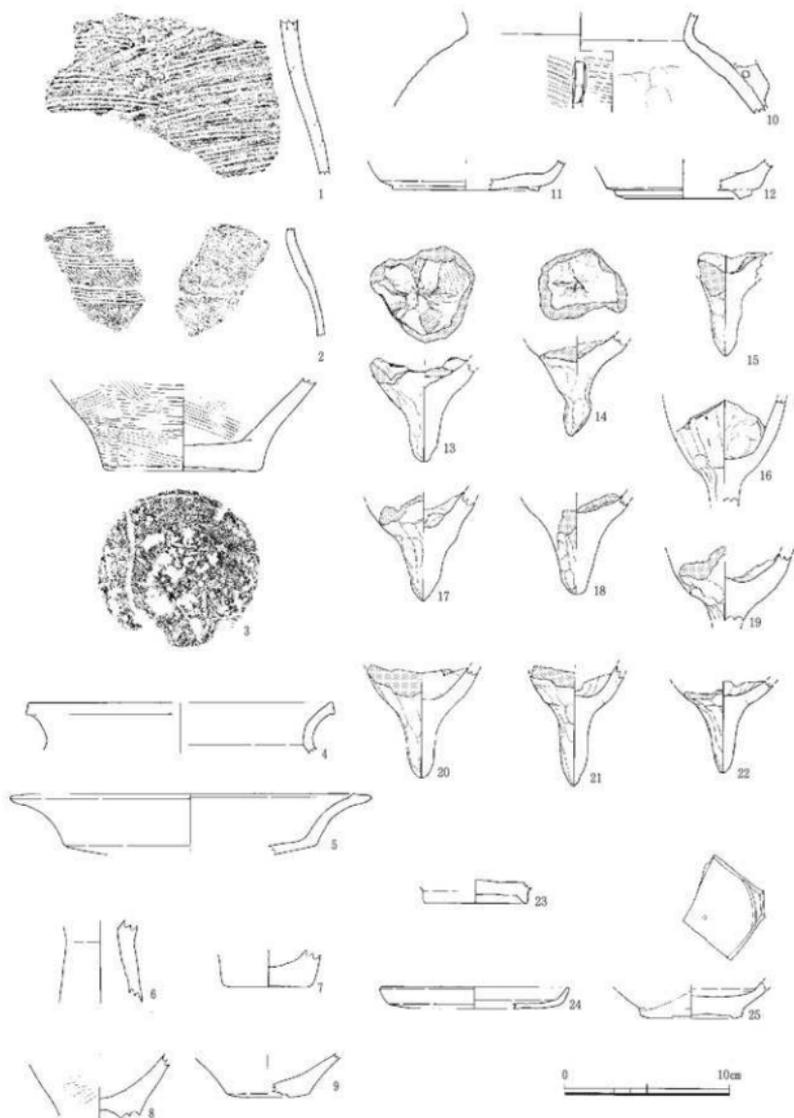
13～22は製塩土器の棒状尖底である。円盤成形技法（四柳1995）の使用が想定され、外面はナデ、



第4図 調査区実測図

内面はハゲ後にナデを施す調整が多い。棒状脚からくびれ部の形状や底部内面の断面形から若干の時期差が認められた。13～15は棒状脚からくびれ部の立ち上がり急であり、底部内面の断面形が「Y」字状を呈する。13・14の内面には成形時にできたと思われる縦皺が放射状にみられ、その後ハゲが施される。13のハゲ方向は横であり、縦皺が消えず明瞭に残っていた。16～22も棒状脚からくびれ部の立ち上がりは急であるが13～15に比べると緩く、くびれ部に丸みを帯びるものが多く見受けられた。底部内面の断面形は「Y」というよりもむしろ「T」字状に近い。放射状の縦皺はナデによって消されることが多く、ハゲ調整を明瞭に残すものは少なかった。19は底部内面中央が膨らんでおり、周囲から土をかき寄せたものと考え。棒状尖底は未固化石料を混ぜると56点出土した。

23は碗の底部で、内黒である。24は皿である。砂粒の混入が少なく、キメの細かい胎土を使用している。25は碗である。釉は高台脇まで施されている。底部の厚さは体部と比して約2倍あり、内面には幅1mmで圏線が巡り、その径は7.8cmを測る。他にも被熱した凝灰岩や砂岩(26～28)が出土しており、炉材として使われていた可能性がある。



第5图 遺物実測図

第2表 土器観察表

観測番号	実測番号	出土地点	器種	種類	法量 (cm)			色調 (素地)		胎土	焼成	調整		備考
					口径	底径	器高	内面	外面			内面	外面	
1	D20	2区-3区遺構棟出	深鉢	縄文土器	-	-	-	浅黄	浅黄	1ミリ大の粗砂粒多量に含む	良	ナデ、指押さえ	赤褐色	海綿骨針少量含む
2	D3	2区包含層	釜	弥生土器	-	-	(6.6)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1ミリ以下の粗砂粒含む	良	刷毛目、指押さえ	刷毛目、直線文	海綿骨針含む
3	D1	1区-2区壁立て	甕	土師器	-	9.6	(5.8)	灰黄	灰黄	1ミリ以下の粗砂粒多量1ミリ大の粗砂粒少量含む	良	刷毛目のチナデ	刷毛目	底部圧痕有り、海綿骨針含む
4	D24	1区東包含層	甕	土師器	(18.5)	-	3.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1ミリ前後の粗砂粒含む	良	磨耗不明	磨耗不明	
5	D8	1区東包含層	高杯	土師器	22.1	-	3.7	にぶい黄橙灰黄緑	にぶい黄橙灰黄緑	白っぽい3ミリ程度の練中程度細砂多く含む	良	磨耗不明	磨耗不明	残存率口縁2/2、海綿骨針含む
6	D23	1区包含層	器台	土師器	-	-	(5.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	細砂、粗砂多	良	ナデ	磨耗不明	海綿骨針・赤色粒含む
7	D15	1区包含層	甕	土師器	-	5.3	(2.3)	にぶい黄橙	灰黄緑	粗砂多	良	磨耗不明	ナデ	海綿骨針含む
8	D22	1区包含層	製塩(倒孟型)	土師器	-	5.1	(2.6)	浅黄橙	浅黄橙	1ミリ以下砂練多、1-2ミリ粗砂わずかに含む	良	ナデ	磨耗不明	海綿骨針含む
9	D10	1区西包含層	高杯	土師器	-	-	(4.0)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1-2ミリ粗砂多、3-4ミリ練少	良	ナデ	刷毛目	海綿骨針少量含む
10	D5	1区-2区表土除去	瓶	須恵器	-	-	(6.1)	灰	灰、灰白	細砂多	良	ロクロナデ、当具痕	ロクロナデ、並行タタキ	海綿骨針少量含む
11	D9	1区東包含層	有台杯	須恵器	(12.0)	9.0	1.8	青灰	青灰	白っぽい粗砂、細砂多く含む	良	回転ナデ	回転ヘラ切り、回転ナデ	残存率底部3/2
12	D17	2区包含層	有台杯	須恵器	-	8.6	2.4	灰	灰	4ミリ以下の白い半透明の砂練多く含む、赤色粒を含む	良	ロクロナデ	ロクロナデ、高台部分貼り付け後押さえナデ	
13	D12	1区西包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	-	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1ミリ以下砂練多、1ミリの粗砂少量含む	良	刷毛目、ナデ、しぼり目	指ナデ	海綿骨針含む
14	D16	1区包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	6.1	にぶい黄橙	にぶい黄橙	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
15	D25	1区包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	-	灰黄緑	にぶい黄橙	1ミリ前後の粗砂粒	良	しぼり風指押さえ	ナデ、指押さえ、ひねり痕	海綿骨針含む
16	D11	1区西包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	-	浅黄橙	浅黄橙	1ミリ以下砂練多、1-2ミリ粗砂少3ミリの練少	良	指押さえ	ケズリ指ナデ	
17	D18	1区包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	(4.5)	にぶい黄橙	にぶい黄橙	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
18	D13	1区包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	6.7	にぶい黄橙	にぶい黄橙	粗砂多	良	ナデ、指押さえ	ナデ、指押さえ	海綿骨針含む
19	D19	1区西包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	(6.3)	にぶい黄橙	橙	1ミリ以下砂練少、1ミリ程の粗砂わずかに含む	良	指押さえ	指ナデ	海綿骨針含む
20	D14	1区西包含層	製塩(尖底)	土師器	-	-	(6.9)	灰	にぶい黄橙	1ミリ以下砂練多	良	指ナデ	指ナデ	海綿骨針多く含む
21	D6	1区	製塩(尖底)	土師器	-	-	(7.4)	灰白	にぶい黄橙	粗砂多	良	指ナデ	指ナデ	海綿骨針多く含む、シャ-モット含む
22	D7	1区遺構棟出	製塩(尖底)	土師器	-	-	(5.6)	灰黄	灰黄	粗砂多	良	指押さえ	指ナデ	海綿骨針少量含む
23	D4	2区包含層	甕	土師器	-	6.2	1.4	灰-暗灰	にぶい黄橙	細砂、1ミリ大の白く半透明の粗砂やや多	並	ナデ	ロクロナデ、高台部分貼り付け後押さえナデ	内黒
24	D21	2区包含層	甕	土師器	(11.4)	(10.4)	1.3	黄灰緑	塊灰灰白	粗砂中量	良	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	海綿骨針多く含む
25	D21	2区包含層	甕	白磁	-	6.2	2.3	灰白	灰白	緻密細砂、2.5ミリ大の白い練をわずかに含む	良	回転ナデ	回転ケズリ	

## 第4章 まとめ

今回の調査で出土した遺物は、北側の丘陵裾からの流れ込みである可能性が高く、遺跡本体は北側の丘陵裾沿い、現塩津集落が営まれている箇所に重なる形で立地していたものと推定される。近年のほ場整備工事の際にも軟弱な地盤に悩まされていることから、調査区南側周辺は居住地としては不向きだったと考えられる。

出土した遺物の時期は縄文から中世と幅広い。大半は製塩土器であるが、製塩の炉材と思われる遺物も少片であるが確認している。製塩を中心に、往時の塩津集落の人々の生活を窺い知る資料を得たことが今回の調査の成果といえる。

### 報告書抄録

ふりがな	ななおし しおついでき							
書名	七尾市 塩津遺跡							
副書名	一般県道豊田笠師保停車場線改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	谷内明央							
編集機関	財団法人石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18-1 Tel 076-229-4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しおついでき 塩津遺跡	いしかわけん ななおし 石川県七尾市 なかじままちしおつ 中島町塩津地 ない 内	172022		37度 4分 45秒	136度 51分 14秒	20020701 ~ 20020715	250㎡	一般県道 豊田笠師 保停車場 線改良工 事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺物		特記事項			
塩津遺跡	生産、 集落	古墳・古代	製塩土器、土師器 須恵器、白磁					
要約	塩津遺跡の南端を確認した。遺物は縄文～中世と幅広く、製塩土器の出土が目立つ。							



調査着手前（西から）



表土除去作業



作業風景 (西から)



完篇状況 (西から)



完備状況（東から）



埋め戻し作業

図版 4



1区完掘状況(北から)



2-3区完掘状況(北西から)



調査区土層①



調査区土層②



調査区土層③



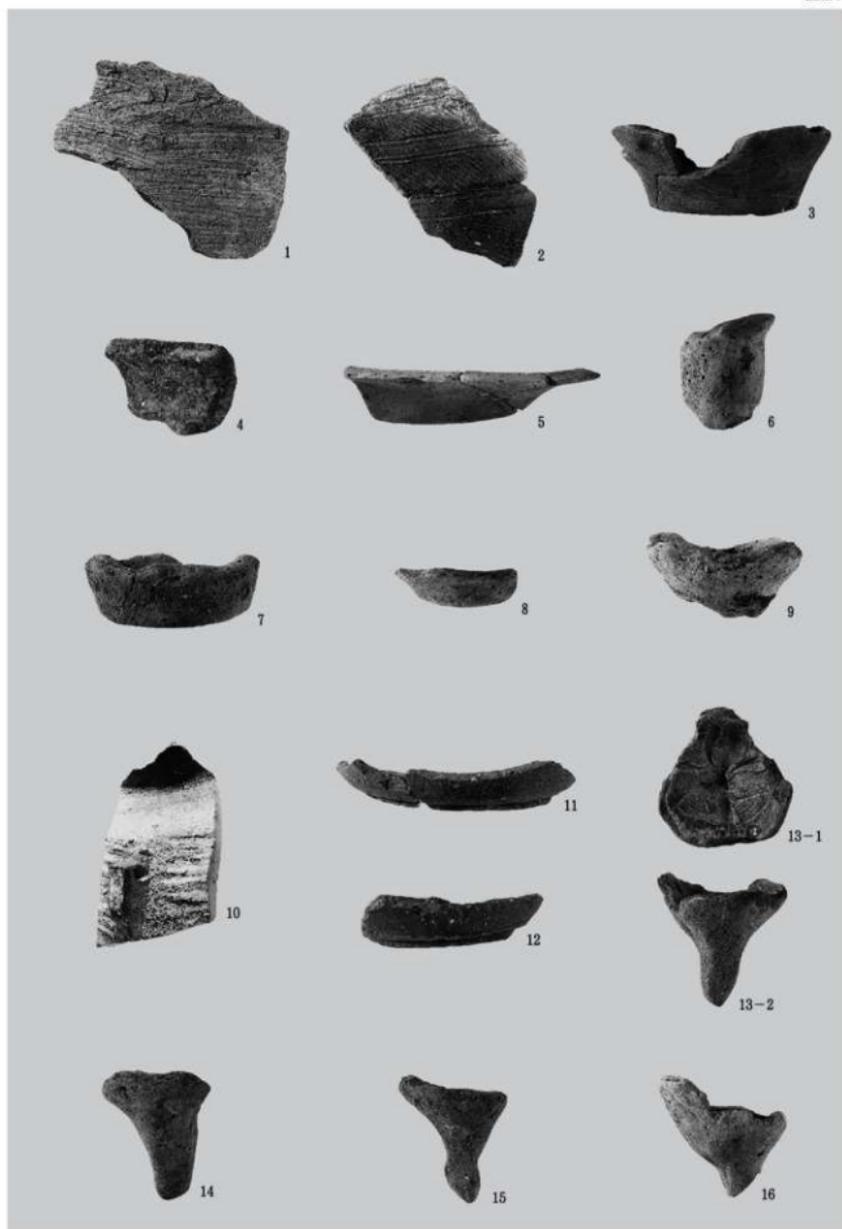
調査区土層④



調査区土層⑤



調査区土層⑥



出土遺物①



## 七尾市 塩津遺跡

発行日 平成17年（2005）3月31日  
発行者 石川県教育委員会  
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地  
電話 076-225-1842（文化財課）  
財団法人 石川県埋蔵文化財センター  
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1  
電話 076-229-4477  
E-mail address mail@ishikawa-muibun.or.jp  
印刷 有限会社 栄光ラボラトリー